

事務事業評価シート (評価対象年度：令和元年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	学校プール授業事業					②事業番号	7102
③事業類型	2. 法上(任意)事業			④開始年度	昭和 39 年度	⑤終了予定年度	年度 ○ 設定なし
⑥根拠法令等	法令	○ 条例	○ 規則	要綱	○ 計画等	その他	法令等の名称 泉南市公立学校設置条例他
⑦実施手法	直営	全部委託	○ 一部委託	補助・負担	その他		
⑧関連予算科目コード	款	9	項	1	目	6	細目 1
⑨担当部名	⑩担当課名			会計 一般会計			
教育部	教育総務課						

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 学校プール	① プール施設数	施設
② 児童・生徒	② 児童・生徒数(5月1日現在)	人
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
学校プール授業時に児童生徒が安全で快適に学習できるよう良好な教育環境を提供するため、清掃、水質管理を委託し、修繕・薬剤・物品の購入などの施設の維持管理を行っている。	① 委託件数	件
	② 修繕件数	件
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
安全快適に学校プール授業が実施できる良好な教育環境を保持する。	① 委託料	千円
	② 修繕料	千円
	③	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
学校プールの適正な維持管理を行うことで教育環境の整備及び義務教育の充実へ繋がる。	政策(章)	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち
	施策大(節)	3 子どもが豊かな人間関係と学ぶ喜びを育むまちをめざします
	施策中	2 義務教育の充実
	施策小	6 教育環境の整備

〔2〕各種指標値、事業費の推移

指標名		単位	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	指標値の推移における 特殊要因などの説明
対象指標①	プール施設数	施設	10	10	10	10	—	
対象指標②	児童・生徒数(5月1日現在)	人	5,455	5,260	5,043	4,834	—	
活動指標①	委託件数	件	2	2	2	0	—	令和元年度は、学校プール授業を3か所実施。令和2年度は学校施設でプール授業を実施しない。
活動指標②	修繕件数	件	4	3	3	0		
活動指標③								
成果指標①	委託料	千円	4,223	4,134	1,523	0	—	事業費などの推移における特殊要因などの説明
成果指標②	修繕料	千円	270	232	376	0		
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.21	0.21	0.26	0.26		令和元年度は、プール団体使用の減少に伴う使用料減額。R2は団体使用しないため減額となる。
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
事業費	人件費(投入人員×単価)	千円	1,686	1,702	2,005	2,005		
	直接事業費	千円	8,975	8,838	6,609	3,593		
	総事業費	千円	10,661	10,540	8,614	5,598		
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	24	24	18	0		
一般財源		千円	10,637	10,516	8,596	5,598		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	学校プール設置による。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	年々熱中症の危険性が高まっている。今後も、夏期の気温は上昇傾向であると考えられ、より一層の熱中症対策が必要になる。加えて、施設の老朽化等による維持管理経費等の増加が見込まれる。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	施設の老朽化等による維持管理経費が増加している。 令和元年度は、10施設のうち3施設は学校プールを活用した授業を実施し、7施設は学校プールを使用せず民間の屋内プールを活用した学校水泳授業支援事業に移行した。

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価 **A**

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	教育環境が向上することにより、効率的な学校運営が展開される。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	義務教育で使用する公共施設であり、良好な教育環境の提供は行政の責務である。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	学校プール授業で使用するプールなので、維持管理、整備することで、良好な教育環境を提供することができる。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	学校施設内で、プール授業を行う教育環境を提供することができない。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価 **B**

⑤期待どりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	学校プール授業は円滑に実施されているが、夏季の気温上昇に伴い、熱中症の危険性が高まっている。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができますか。)	ア. ある イ. ない	民間の屋内プール施設を活用することで、教育環境の向上、授業の安全実施に繋げていくことができる。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	教育施設の維持管理は教育委員会の責務のため不可能である。

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価 **B**

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	民間のプール施設の活用が可能となれば、老朽化する施設の維持管理コストを削減できる。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	義務教育のため受益者負担は不可能である。

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C:課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	D	施設の老朽化等による維持管理経費等の増加が見込まれるとともに、夏季の気温上昇に伴う熱中症等の危険性が年々高まっている。 より良い教育環境を提供するため、民間等のプール施設の活用を含めた実施方法を検討する必要がある。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

イ	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止	(年まで) (年から) (年から)
	<今後の展開方針> - 重点化する(集中的なコスト投入) - 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) - 効率化する(コストを下げる) - 簡素化する(規模を縮小する) - 統合する(他の事務事業と統合する)	
①改革、改善の具体案、実施年度など		民間のプール施設の活用を検討する。
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		夏季の気温上昇に伴う、熱中症対策が不可欠となっている。プール授業を安全かつ円滑に実施するため児童・生徒の移動方法等が課題であるが、児童・生徒の送迎等を含めて民間のプール施設を活用できれば熱中症対策を講じることができる。 安全安心でより良い教育環境を提供するため、民間のプール施設を活用している学校水泳授業支援事業に移行していく。